

## 施餓鬼 施食の教え

# わかちあう心

ます。人は場合によつては、鬼ともなり餓鬼ともなる存在かもしれません。

そのような心をいましめ、布施の心、わかちあう心の大切さを、施餓鬼（施食）は教えているのです。

餓鬼は、この現世にも存在しています。

餓鬼とは欲が深く、おさぼり、財があつてもまだ足りず、地位、名譽があつても、まだ足りない、そういう存在です。そういう人なら、この現代社会にも、うようよいそつです。そういう人を財産餓鬼、名

**Q** 阿難物語で  
お釈迦さまが  
説かれたこととは。

経典によると、この法会の目的は、餓鬼道で苦しむ餓鬼を救うために飲食を施すことでした。「十方の僧に施食して食物が餓鬼の口に入る」とあります。

すなわち僧が食しているよ

**Q** この世にも餓鬼  
はいるのですか。

施餓鬼（施食）の法会は日本では古くから行われていたようです。『宇治拾遺物語』に



餓鬼

も施餓鬼（施食）の記述があります。

ところで餓鬼といえはあの世にいる存在と思うかもしれませんが、じつは餓鬼とは我利我欲の心、自分さえよければいいという心です。まさに餓鬼とは、あの世においてではなく、この世にも数多くいることがわかります。

こうしてみると、お施餓鬼（施食）の法要は、一歩まちがうと餓鬼のような人間になりかねない、私たち人間に生き方をも教えている、といえるのではないのでしょうか。

お釈迦さまは阿難に施しをせよ、慈悲の心を持ちなさいとさとされました。

阿難さまは、お釈迦さまの教えによつて救われた後も常に餓鬼が救われるように願い、施食をつづけたといえます。

阿難さまの、この行為は人々に受けつがれて現在に至っているのです。実際、私たちの心の底にも餓鬼がひそんでいるかもしれません。

その心と対極にあるのが布施の心です。私たちも、この阿難さまの悩み、足跡を偲び心の安らぎを得たいものです。